

浜松市公共事業評価委員会について【(国) 152号 (池島～大原) 《再評価》】

【事業概要】

- 三遠南信自動車道は、長野県飯田市を起点とし、静岡県浜松市に至る延長約100kmの高規格道路
- 三遠南信地域を結ぶ地域連携の基軸となり、広域交流や物流の活性化、災害時の“命の道”として、信頼性・安定性の高い道路ネットワークを構築する重要な道路
- 三遠南信自動車道（水窪北～佐久間）計画段階評価にて水窪北IC（仮称）から水窪IC（仮称）間を浜松市が現道改良区間として整備することが対応方針（案）として決定
- 本事業は三遠南信自動車道の青崩峠道路と水窪佐久間道路の高規格道路をつなぐ現道改良区間の整備を目的

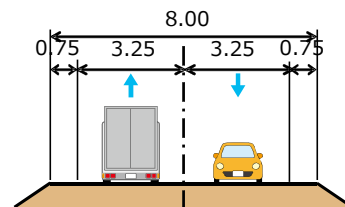
【評価目的】

令和2年度の事前評価より5年が経過しており、公共事業の効率性及び透明性の向上を図るため、事業再評価を行うもの

【路線概要】

- ・ 道路規格 : 3種2級
- ・ 設計速度 : 50km/h
- ・ 車線数 : 2車線
- ・ 橋梁数 : 11橋
- ・ 概算事業費 : 約180億円

◆ 標準横断図



【事業経緯】

- H 2 5 現道改良区間として対応方針（案）の決定
- H 2 7 事業着手（概略設計開始）
- H 2 8 交付金事業として実施（現地測量着手）
用地買収着手
- H 3 0 工事着手
- R 2 事前評価を実施
- R 3 個別補助事業化
- R 7 事業再評価を実施



■ 事業箇所図

【事業効果】

- 三遠南信自動車道の開通やリニア中央新幹線の開業により、南信州地域や北陸地域からの観光交流が拡大
- 三遠南信自動車道整備により、北遠地域の60分圏域が拡大、また道路幅員が確保され、天竜材の輸送効率化など、経済・産業の活性化
- 三遠南信自動車道の全線開通により、国道152号が通行止めとなった際の迂回路として機能を発揮
- 費用対効果分析結果 B/C : 1.1

浜松市公共事業評価委員会について【（主）浜松環状線（西ヶ崎工区、中郡・笠井工区）《事前評価・再評価》】

【事業概要】

- （主）浜松環状線は、都市の骨格を形成する環状道路であり、市中心部に向かう放射道路の交通を分散する役割
- 安定な物流輸送を支える重要物流道路に指定されているとともに災害時の広域物資拠点等を連絡する重要な道路
- （主）浜松環状線と鉄道との交差点（積志13号踏切）は、鉄道高架化により立体交差化

【評価目的】

事前評価（西ヶ崎工区）

- 公共事業の効率性及び透明性の向上を図るため、令和8年度新規事業化を目指し、新規事業採択時（国庫補助事業）に評価を行うもの

再評価（中郡・笠井工区）

- 令和2年度の事前評価より5年が経過しており、公共事業の効率性及び透明性の向上を図るため、事業再評価を行うもの

【路線概要】

事業評価	事前評価	再評価		
事業名	（主）浜松環状線（西ヶ崎工区）	（主）浜松環状線（中郡・笠井工区）		
事業区間	西ヶ崎工区	中郡第2工区	中郡第3工区	笠井工区
事業内容	道路（0.76km） ※拡幅0.25km、舗装0.51km 鉄道高架化（1.4km）	道路拡幅（1.24km）		
事業経緯	令和7年度：事前評価 令和8年度：新規事業化（予定）	令和2年度：事前評価 令和3年度：個別補助事業化 令和7年度：再評価		
概算事業費	約9.6億円	約4.8億円		

【事業効果】

- 放射道路から環状道路へ交通が転換され、放射道路の交通量が減少することにより、浜松環状道路の内側の渋滞が緩和される
- 浜松ICから企業が集積する都田地区への移動時間が約6分短縮
- 踏切除却に伴い踏切に起因する交通事故がゼロ
- 3次医療施設への圏域が拡大し、30分以内に搬送可能な人口が約2.6万人増加
- 西ヶ崎工区の鉄道高架化及び中郡・笠井工区を含めた道路拡幅により、（主）浜松環状線の全線4車線化による環状機能が形成
- 放射道路の交通量が減少し、放射道路を通る公共交通（バス）の定時性及び利便性が向上する見込み
- 費用対効果分析結果 B/C 西ヶ崎工区：3.9 中郡・笠井工区：3.2

【道路ネットワークのイメージ】

